ヨシナカ新聞

ステンレス豆知識

ステンレス3種（マルテンサイト、フェライト、オーステナイト）及び他金属の特性の比較表をネット上で見つけました。資料が少し古いようですので参考程度ということでご覧ください。

物理、機械的性質の比較

項目	単位	ステンレス鋼			炭素鋼	純アルミ	純チタン	純銅
		マルテンサイト	フェライト	オーステナイト				
融点	℃	1450	1450	1400	1535	660	1668	1083
比重	g/cm3	7.75	7.7	7.93	7.9	2.7	4.5	8.9
比熱	cal/g/℃	0.11	0.11	0.12	0.12	0.21	0.13	0.09
熱伝導率	Kcal/m.hr.℃	21	22	14	50	168	15	320
電気抵抗	μΩ-cm	57	60～72	72～78	10～16	2.8	55	1.7
引張強さ	N/mm2	745	520	579	324～402	98～196	392	216
伸び	%	30	28	55～60	37～44	25～40	30	50
硬さ	HB	217	85	80	70	25	120	46
磁性		有	有	無	有	無	無	無
耐塩素腐食		不良	不良	不良	不良		良	
焼入硬化性		有	無	無	有			
加工硬化性		多少	多少	大	多少			
溶接性		悪	やや劣	良	良			
高温特性				良		やや劣	良	やや良
極低温特性				良		やや良		やや良

傘を極める

大層なタイトルですが、良い傘を購入し、長く使うコツです。梅雨の時期なので紹介させて頂く事にしました。

その1　傘の選び方

安値の傘は壊れるのも早いようです。それでは高価な傘を購入すれば長持ちするのでしょうか。基準はいったいどこにあるのでしょうか。

ポイントはJUPAのマークが入った傘を選ぶこと。JUPA（Japan Umbrella Promotion Association）マークは品質、性能、ファッション性などを保証する印で、品質表示カードと、傘の中縫片布で確認出来ます。品質表示カードには、製造者または取り扱い者名と連絡先が明記されていますので、メーカー修理が可能になります。

その2　傘の正しい扱い方

①2～3度軽く振って生地をほぐしてから開きましょう。急な雨で無理に傘を開くと生地が絡んで骨が折れたり、傘全体に負担がかかる原因となります。

②傘を回すのはやめましょう。ハンドルやロクロに遠心力がかかり大きな負担となります。

③ハンドクリーム等が付いた手で傘を持たないようにしましょう。ハンドルが色落ちしてしまう事があります。

④使用後の水切りはやさしく。傘にかかる負担が予想以上に大きいようです。

⑤傘をたたむ時、木地を締め付けたりこすったりすると生地表面の加工がとれてしまいます。やさしくたたみましょう。

⑥傘を車中に放置しないようにしましょう。骨が錆びたり、熱で曲がってしまったりすることがあります。

⑦濡れたまま放置しないようにしましょう。骨が錆びたり、生地がいたんだりします。

（日本洋傘振興協議会ホームページより）

『負けず嫌い』って。。。

以前からずっと気になっていた言葉がありました。それは『負けず嫌い』。宮沢賢治の「雨にも負けず　風にも負けず」という詩がありますが、これは雨にも負けない、風にも負けないという意味なので、これから考えると『負けず嫌い』は負けないのが嫌い。という事は負けたいという意味になるのではないか。こんな疑問を持ったままずっと生きて来ました（大袈裟）。

以前、インターネットで調べてみたのですが、納得のいく答えを見つけることが出来ませんでしたが、今回また検索してみるとＮＨＫ総合テレビの『お元気ですか日本列島』のホームページに「気になることば」というのがあり、そこで『負けず嫌い』についての説明がありました。

「負けず嫌い」は明治時代には「負け嫌い」という言い方がされており、「負けるのが嫌い」という意味なので、まさに本来の表現だと言えます。これと並んで、「負ける嫌い」とも言われていました。

また、これとは別に「負けず魂／負けじ魂（他人に負けまいとがんばる気持）」という言葉もあり、この「負けず魂」と「負ける嫌い」とが合わさったものが、「負けず嫌い」なのではないだろうかということです。

この説明でちょっと納得した感じがします。「負けず嫌い」は確かに理屈に合わない表現かもしれませんが、現在ほとんどの辞書に載っている表現であり、これを「間違っている」と決めつけるのは不適切であろうという説明でこのサイトでは締めくくっています。

もうひとつ、『人一倍』という言葉の説明もこのサイトにありました。『人一倍頑張った』掛け算で考えると、一倍＝「×１」となり、元のまま？になってしまいます（笑）

人より二倍頑張るという意味の言葉ですし、辞書にも「人一倍」＝「人の倍であること。普通の人以上であること」とあります。そこで「一倍」の意味を調べたところ、なんと元々は「ある数量にそれと同じだけのものを加えること」という意味だったのだそうです。昔は給料を二倍にすることを、「給料を一倍増やす」と言っていました。しかし、明治８年、【計算上一倍の称呼を止め（中略）二倍と改正候】といった太政官布告も出されたのだそうです。言葉って面白いですね。

K社員のピアノ奮戦記

第18話　発表会　その1

平成16年も秋になり、ピアノを習い始めて半年が経過しました。ギブアップした『明日に架ける橋』の次の曲を考えている時、11月中旬に発表会があるので出てみませんかと先生から誘われました。

弾ける曲って『ひまわり』か『星に願いを』くらいか。でも『ひまわり』はあれから全然練習してない。や、やばい。

「Kさん、あれから『ひまわり』続けて弾いてますか」

す、鋭いご質問。さすがＳ先生。それとも私の顔に【練習していません】って書いてあったか。冷や汗が。

「あ、はい、あ、いえ、初めのところしか弾いていません。すみませんです。」

「いえいえ。でもそうだとかなり弾けなくなってると思いますので、これから毎日練習されれば間に合うと思いますけど」

私の心の中で二人の私が喧嘩します。

【おい、初めての発表会だろ。無理すんなよ。大恥かくぞ。まだ早いよ。やめとけ】と言う私Ａに対して、【何言うてまんねん。あんた、挑戦者の気持ち忘れたらあきまへんで。ここで出えへんかったら、ずっと出られまへんで。勇気出しなはれ】と私Ｂが反論します。

結局結論が出ず、次のレッスンで返事しますと先生に伝えました。